

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	＊	＊
	○	商店街（代表者）	・インバウンドについては、原子力発電所の処理水放出の影響で中国人観光客の動きが低調になっているが、それ以外の国からの入込が堅調に推移しており、好調を維持している。また、現状は富豪層が多いこともあって、消費が活発な上、マナーも良く、安定した環境となっているため、このままの状態推移してくれる方が有り難い。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ数か月、売上が堅調に推移していることから、今後も良い状態が続くことになる。
	○	百貨店（売場主任）	・今後については、インバウンドが増える分だけ売上も増えることになる。ただし、国内客による売上は、冬を控えて光熱費が上昇していることから、横ばい又は下がることになる。
	○	スーパー（店長）	・これから気温が下がり始めれば、今まで停滞していた秋冬物の需要が一気に動くことになる。また、旅行関連商材については引き続き伸びるとみられるため、これから冬に向けて、段々と良い流れになっていく。
	○	スーパー（店長）	・ポイント利用促進企画の増加、ポイント利用範囲の拡大により、客の来店回数が増えており、商圏内でのシェア率が上昇している。
	○	スーパー（企画担当）	・いわゆる130万円の壁に対する政府の対応策が発表されたことで、当社で働くパート従業員も時間を気にすることなく就業できるようになる。他企業も同様であることから、パート従業員の収入確保につながり、消費に回る金が増えると思われる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・季節的に猛暑が落ち着くことで、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・10月以降、数車種の新型車発表を予定していることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・コロナ禍から脱却しつつあること、値上げに対する客の過剰な反応が払拭されつつあることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	観光型ホテル（経営者）	・冬季シーズンのインバウンドの予約が好調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	旅行代理店（従業員）	・物価や原油価格の高騰などに伴って、宿泊料金や航空運賃なども値上げが進んでいるものの、旅行需要に影響が出てこないことを期待している。
	○	タクシー運転手	・人手不足は深刻であるものの、タクシーの稼働台数は維持できていることから、これから紅葉シーズンを迎えて景気はやや良くなる。
	○	タクシー運転手	・人の動きが少しずつ活発になっているため、今後の景気はやや良くなる。
	○	通信会社（企画担当）	・大型商業施設などにおける出店販売の成果次第ではあるが、通信端末が値上がりしているにもかかわらず、都市部、地方部のいずれも客からの引き合いは減っていない。また、クレジットカードやポイントカードの入会ペースも落ちていないことから、今後については、微増ではあるが、収益増加が期待できる。
○	観光名所（従業員）	・各種商品の価格が高騰しているにもかかわらず、観光客の回復基調が続いている。今後に向けて、懸念材料となるようなマイナス要素も見当たらないことから、景気は少しずつ良くなっていく。	
□	商店街（代表者）	・当地域のスーパーが9月末で閉店し、区域内で日配品、生鮮食品などを購入できる店舗が無くなることもあって、地域住民による日用品以外の買物が減ることになる。また、燃料価格の動きは落ち着いているものの、依然として生活費に占める割合が高いため、客の節約志向は強まることになる。	
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・売上はコロナ禍前の水準を上回っているが、それは1店舗増えたためであり、日本人客の買い控えは増えている。欧米からの観光客はクルーズ船寄港の効果でやや増えているが、中国人観光客が回復してこなければ、コロナ禍前の状態には戻らないとみられるため、今後も景気は変わらない。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	・一般客にとって、先行きの見えない状況が続いているため、今後も身の回りの景気は変わらない。今後は2極化がますます進むことになる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・競合店対策の施策を行っているものの、景気はほぼ変わっていない。これから冬に向けて、商圏が狭くなることから、来客数が減ることも懸念される。このため、今後も同じような状況が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げを極力抑制している一方で、営業コストの上昇を吸収し切れていない競合先もあることから、今後もマーケットのシェアはある程度維持できることになる。ただし、営業コストが上昇するのは当社も同様のため、経営が楽になるわけではない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・コロナ禍が収まることで来客数も回復するとみていたが、実際は期待していたほど、来客数が戻ってきていない。売上は販売価格を上げたことで増えているが、来客数が増えてこなければ、この先の売上が増える見込みが立たない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・客の買上点数が減少しているため、値上げを行っているにもかかわらず、客単価が上向いてこない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（経営者）	・電気料金高騰の影響で、省エネ商品などは今後も引き続き売上が増加することになる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・猛暑の影響で夏物商材を購入した客が多く、その反動が出てくることが懸念される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・大手建設業であれば、現在の需要にも組織的に追従できるのかもしれないが、個人住宅などを業としている小規模建設業の経営環境はかなり厳しくなっている。観光関連の回復も人手不足が足かせとなり、需要を取り込みきれていない。そのため、全体的な景気は今後も変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・インバウンドが増えて、様々なところに金が回るようになっていくことで、景気自体は良くなるとみているが、自動車業界については、金額の大きな消費となるため、景気はなかなか上向いてこない。ただし、10月以降、新車種が発表されることから、2～3か月後の景気は多少上向くことになる。現在は、景気の底にあるとみられる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・現状の納期問題が解決しない限り、自動車業界の景気は良くならない。また、受注できる車種も限られているため、対応車種が出そろうないと、今後の景気回復にはつながらない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [造花] （店長）	・年末商戦を迎えて、インボイス制度の影響がどのように出てくるのかが不透明なため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・来客数が落ち着き、料理の安定提供ができるようになったことで、店内の雰囲気や和らかなり、店にとってお客にとっても良い傾向がみられている。9月の収支はまだ出ていないが、原価高にも少しずつ対応できるようになっている。これから年末にかけて、人手不足やコスト高対応などに向けた体制を整えていきたい。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・秋の紅葉シーズンを迎えて、行楽客の動きが多少期待できるものの、大きなイベントなどはない。現在の予約状況がそれほどでもないことから、今後も現状維持の状態が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・乗務員不足で稼働しているタクシーが減っているため、今後もタクシー1台当たりの売上や乗務員の給与がコロナ禍前を上回る状況が続くことになる。ただし、乗務員不足はなかなか解消できないため、会社の売上はコロナ禍前と比べると大幅な減収であり、利益がなかなか出ない状況は改善されない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・観光客の予約もイベント関係の予約も例年並みのため、今後の利用状況に変化はないとみられる。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・4年ぶりのイベント開催などもあって、9月の景気は良かったことから、これから冬にかけての動きを注視している。
<input type="checkbox"/>	通信会社（エリア担当）	・先行きが不透明である。
<input type="checkbox"/>	通信会社（エリア担当）	・先行きの見通しが立たない。

□	観光名所（職員）	・物価の高止まりが続いている一方で、個人所得は物価の上昇率ほど上がっているわけではない。一定程度の消費は行われるとみられるが、生活必需品以外の動向は鈍化することになる。
□	美容室（経営者）	・来客数及び売上がコロナ禍前の水準に回復しているため、今後も同じような状況で推移することになる。
□	美容室（経営者）	・不安定要素は特にはみられないため、今後も景気は変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	・引き続き金利が上昇傾向にあるため、住宅着工数は伸び悩むことになる。今後、非住宅や公共工事の木造構造物の案件が出てくれば、回復に転じるかもしれないが、今の状況では厳しい。
□	住宅販売会社（経営者）	・今のところ、経済指標が大きく動くようなことは考えにくい。分譲マンション市場も大きな変化はないまま推移する。ただし、金利の先高観が強まっているため、固定金利を利用する場合に購入を急ぐ動きが出てくる可能性がある。
▲	商店街（代表者）	・全般的に物価が上昇しているため、商材の動きが悪くなっている。
▲	商店街（代表者）	・今後も引き続き値上げが行われる予定であることから、景気はやや悪くなる。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・国内客については、小団体やシニア層の旅行が増えていることから順調に推移するとみられる。一方、インバウンドについては、例年9月以降、ウインターシーズンまで入込が大幅に落ち込むこと、就航数の多いLCCで減便の判断がシビアに行われることから、冬までは落ち込んで推移することになる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	一般小売店（経営者）	・商談の数が減少していること、メーカーの小売希望価格が上昇していることから、今後の顧客離れが不安視される。
▲	スーパー（店長）	・物価高の影響で、価格の安い店に客が流れ始めていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（店長）	・10月からの商品の値上げに伴って、客の消費支出が伸び悩むことが懸念される。
▲	スーパー（企画担当）	・前年ほどではないにせよ、今秋も食品関連の値上げが控えていることから、暖房費や除排雪費のかさむ冬に向けて、客の買い控えが一層進むことが懸念される。
▲	スーパー（役員）	・食品の値上げとエネルギーコストの上昇が続くため、客の節約志向が更に強まることになる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・北海道はこれから光熱費の負担が大きくなる時期に入る。商品の値上げが収まらない現状では、客の生活防衛意識が高まり、節約志向が強まることになる。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	・物価高、特に食品の値上げが続いていることから、日々の生活のなかで食費を確保するために、食品以外の支出を抑える動きが顕著になる。
▲	乗用車販売店（経営者）	・配車状況が堅調に推移していることから、収益は比較的安定しているものの、毎月の受注台数が販売台数を下回っており、受注残が減る一方である。また、高額商品を販売する上で、燃料価格の高騰や様々な商品の更なる物価上昇が懸念材料の1つとなっている。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	住関連専門店（役員）	・猛暑の影響で夏物商材がよく売れ、売上を押し上げたが、その他の商品の販売動向は振るわなかった。日用消耗品などの買い控え傾向が改善されるような環境の変化がみられないことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	・全国旅行支援の再開が発表されたが、その効果よりも、全国旅行支援終了後の割高感による買い控えの影響が大きくなるとみられるため、全体的には景気はやや悪くなる。
▲	旅行代理店（従業員）	・今後については、国などによる需要喚起策も予定されていないことから、物価上昇の影響で、旅行などのレジャーにおける消費マインドが低下することになる。インバウンドも、原子力発電所の処理水放出の影響で中国便の増加が見込めない状況となっている。また、周辺地域のホテルでは、工事関係者の増加に伴って、宿泊料金が上昇傾向にあるなど、先行きへの不安材料も見え始めている。
▲	旅行代理店（従業員）	・円安及び燃料価格の高騰が落ち着かないことには、景気の回復は難しい。インバウンドが増加しているなか、貸切バスや宿泊などが手配できないケースも散見されており、その影響は今後も続くことになる。

	▲	旅行代理店（従業員）	・今後も、物価高、円安、燃油サーチャージ高騰が続くと見込まれることから、海外旅行が低迷することになる。インバウンドは増加傾向にあるが、その効果を収益に取り込むような仕組み作りが困難であるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光の最盛期が終わったため、今後の輸送量は減少することになる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・土地の売買相場は落ち着きを見せているが、資材価格や燃料価格が高騰しているため、建築コストの低下は見込めない。また、住宅ローン金利が上昇基調にあるなか、総体価格の低下も見込めない。既に客が借入れできる金額が上限近くに達しているため、住宅購入に向けたマインドを維持するのが難しい状況にある。
	×	衣料品専門店（店長）	・スーツ関連は客に見向きもされず、自力での立ち直りが困難な状況となっている。観光業、漁業などのように、国などの支援策がなければ、これからどんどん弱っていくだけである。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスとインフルエンザの感染拡大に伴って、夜の人出が減少している。少なくとも新型コロナウイルス感染症が収束するまで、売上の回復は見込めない。
	×	美容室（経営者）	・物価高の影響で、今後の景気は悪くなる。更なる物価高対策が望まれる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	農林水産業（経営者）	・年末年始になれば、景気はやや上向くと期待している。ただし、現状、その先については見通しが立たない。
	○	通信業（営業担当）	・人流とビジネス需要が回復していることから、今後の景況感については、現在の上向き傾向がしばらく続く。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・都市部を中心に、民間建設投資が旺盛な状況はしばらく続くことになる。また、国による景気対策が縮小する懸念はあるものの、イベントの開催やインバウンドの入込が引き続き好調に推移するとみられることはプラスである。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・国内の建設投資について、引き続き堅調に推移することが見込まれる。
	□	食料品製造業（従業員）	・売上が増える要因がないことに加えて、原材料価格やエネルギーコストが上がり続けていることで利益の出ない状況となっていることから、今後も景気は変わらない。
	□	食料品製造業（従業員）	・今年3月に価格改定と併せて、商品の内容量を減らしたことで、前年割れが6か月継続しているが、販売量が若干回復していることから、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（役員）	・年度内の工事量がほぼ確定しており、計画を上回る完成工事高を確保できる見通しに変わりはない。一方、燃料や建設資材のコストが高止まりしており、利益確保が厳しくなっている。こうした状況は当面続くことになる。
	□	輸送業（従業員）	・販売価格が上昇している商材がある一方で、低下している商材もあるため、景気が良くなるという判断はできない。同業他社も同様の状況にあるため、今後も景気は変わらない。
	□	金融業（従業員）	・中国人以外のインバウンドが増加していること、国内観光客がコロナ禍前の水準に回復していることから、観光関連の業況は改善する見通しにある。一方、物価の上昇が続くなか、原油価格が徐々に上昇し、円安とあいまってエネルギー価格が高止まりしており、これから暖房費の増加する季節を迎えて、個人消費に影響が出てくる懸念される。
	□	広告代理店（従業員）	・電気、ガス、ガソリン、軽油といった生活に欠かせない物の価格が見通せず、政府による支援策なども明確になっていないことから、今後の消費は横ばい又はやや減少して推移することになる。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新しい仕事の話があっても、人材不足で受注できない状況にある。需要が飽和状態にあることから、今後も景気は変わらない。
□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・大型建築案件などの工事の進捗が遅れているなか、設計変更の見直しや規模縮小などの条件変更が出てきており、工事の予定時期が更に遅れ始めている。	

	▲	建設業（経営者）	・今後については、全体的に新規の受注が減ることになる。手持ち工事は最盛期を迎えることになるが、積雪寒冷期を迎えて、日照時間が減少するとともに、除排雪作業が生じることから、稼働量は落ち込むことになる。また、人手不足の影響がどの程度になるかも不透明である。
	▲	建設業（従業員）	・半導体工場進出の影響が少しずつ出始めている。施工者不足の影響で、施工者待ちの期間が5年と言われているが、その期間が更に伸びる傾向がみられつつある。
	▲	輸送業（支店長）	・農産物の出来が悪いとの情報があることに加えて、水産物の輸出も落ち込んでいることから、今後、貨物量が落ち込むことが懸念される。
	▲	司法書士	・インバウンドが好調であるが、その恩恵を受けるのは一部だけである。円安などの影響による物価高が続くなか、賃上げの効果も物価高で帳消しとなっている。政府の経済対策にも過剰な期待は持たないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・原油価格や物価の高騰は今後も続くと思込まれることから、景気はますます悪くなる。インボイス制度などの影響も懸念される。景気を上向かせるような要因が余りないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・冬を迎える前に、売上を確保したいと考える企業が増えている。また、次年度に向けて、売上増加を目指したいと考える企業も多い。これらことから、優秀な人材を確保して、人管理体制を整えようという企業の動きに変わりはなく、今後も景気はやや良い状態で推移する。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・物価高が企業の成長を阻んでいる。物価高と人件費負担の兼ね合いが取れないことが、結果的に企業の求人意欲を損ねている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・物価高が収まらないことから、企業の経営姿勢が慎重になっている。こうした状況はしばらく続くとみられるため、今後も景気は変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後も景気は変わらない。物価高への効果的な対策や将来に期待を持てるような経済政策、金融政策が打ち出されることを期待している。
	□	職業安定所（職員）	・様々な商材の値上げが止まらず、賃金の上昇もそれに追いついていない。実質賃金が目減りしているため、今後の雇用環境も厳しいまま変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・原油価格や原材料価格の高騰など、事業環境の悪化を招く要因が多い上、新規求職者数が2か月ぶりに増加し、有効求職者数も1年1か月ぶりに増加しているものの、業況堅調な事業所からは新規求人が引き続きコンスタントに公開されていることから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は5か月連続で前年を下回っている。産業や業種によってその度合いは異なっているが、新型コロナウイルスの感染状況、経済活動や消費行動の動向によっては先を見通せない状態となることも懸念される。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・平均的又は平均を下回る偏差値の大学に子供を通わせている家庭では、授業料の負担が重荷になっており、景気の良さを全く感じていない状況にある。ただし、景気がそこまで悪いとも感じていないため、しばらくは現状の景況感のまま推移する。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・中小企業においては、厳しい経営状況が続いており、10月1日から最低賃金が改定されることでマイナスの影響が生じることを懸念している。
	×	—	—